

第2回アジア精神医学会に参加して

平久 菜奈子^{1,2)}, 鈴木 正泰^{1,3)},
節家 麻理子^{1,4)}, 松本 良平^{1,5)}

2009年11月7日から10日まで台湾の台北で第2回アジア精神医学会(The 2nd World Congress of Asian Psychiatry)が開催された。今回はThe Asian Federation of Psychiatric Association (AFPA)と台湾精神医学会の共同開催であった。2007年に第1回大会が開催された新しい学会であるが、今回約25カ国から750名以上の参加者が集まった。本稿では、同学会に参加した特定非営利活動法人日本若手精神科医の会(Japan Young Psychiatrists Organization: JYPO)のメンバーが経験したことを併せてお伝えしたい。

本大会では、若手精神科医(35歳以下)にTravel Award for Young Psychiatristsにて、学会登録料の免除および、渡航・宿泊費用の一部が援助された。今回、日本からも数名の若手精神科医が受賞し、研究成果の発表を行った。筆者の内、鈴木は統合失調症における眼球運動の研究について、平久は森田療法について、節家は摂食障害患者の転帰について、ポスター発表を行った。若手の精神科医・研究者が、国際学会へ参加し国際的な視野を身につけることを促進する本奨学制度を企画遂行された学会関係者の方々に改めて御礼を申し上げたい。

多くのシンポジウムが開催されていた中で、JYPOメンバーが参加したものを紹介する。まず、若手精神科医を対象とした「アジアにおける精神療法」のシンポジウムが、2日間にわたって開催され、台湾、タイ、フィリピン、インド、日本、

韓国、カンボジア、モンゴルの8カ国から若手精神科医によって(発表順)、各国における精神療法の現状が発表された。本シンポジウムはTaiwanese Young Psychiatrist Organization(以下TYPO)のメンバーによって企画され、日本における精神療法については、JYPOメンバーである衛藤宣明(福岡大学)が発表した。座長も各国の若手で構成され、どうしたら自国の精神療法の研修制度をより充実したものにするか、どうすれば患者に必要な精神療法を適切に提供できるか、が活発に議論された。また、合わせて各国の若手精神科医の交流のためのシンポジウムが開催された。JYPOの活動内容と、その経験からの提言をJYPO現理事長の松本が行った。

その他には「アジアにおけるアルコール関連問題」のシンポジウムにてJYPOメンバーの白坂知彦(札幌医科大学)が若手精神科医のアルコール依存症に対する意識調査の結果を発表した。「アジア諸国の児童思春期精神医学」のシンポジウムではJYPO卒業生である館農勝先生(札幌医科大学)が日本の児童思春期精神医学の現状について発表した。またAFPA会長の新福尚孝先生や元世界精神医学会会長のNorman Sartorius先生によるglobalな視野に立った素晴らしいご講演が多数あった。

ポスター発表もおおよそ170演題を数えた。アジアの学会ということもあり、基礎および臨床研究のみならず、自国の精神医療の現状を紹介した発表もあり、内容は非常に多岐にわたっていた。特に、アジア諸国の精神科医療の現状(精神科医や専門施設の数、問題となっている精神疾患等)とその多様性を知ることができる貴重な機会であった。

学会3日目には、Taipei City Psychiatric Cen-

著者所属：1) 特定非営利活動法人日本若手精神科医の会、2) 湘南病院、3) 日本大学医学部精神医学系、4) 国立病院機構帯広病院精神科、5) 財団法人復光会総武病院

受理日：2010年5月21日

ter (TCPC) への見学ツアーが行われ、多くの人が参加した。TCPCは1969年に設立され、600床強の精神科医療施設である。病棟や病室の構造に加え、治療面でも慢性期病棟患者への作業療法など、日本の精神科医療との共通点が数多く見受けられた。他国の施設を見学することも国際学会の利点であることが実感された。

本学会に参加することによりアジアの精神科医と出会い、アジアにおける精神科医療の向上につ

いての意識が我々に芽生えたのが最も大きな成果だったのかもしれない。さらに、TYPOとJYPOのように若手同士のネットワークから様々な企画が生まれ研鑽を積めたことに、関係各者に厚く御礼を申し上げるとともに、これらのネットワークを今後活かしていきたいと考えている。次回の第3回大会は2011年オーストラリア・メルボルンで開催される予定である。